

佳作

## 病気に負けないで！

茨城県 小美玉市立堅倉小学校四年 田村 実夢

わたしの家族は、お父さん、お母さん、五才の弟と三才の妹、そしてわたしの五人です。

ある日わたしが学校から帰ると、お母さんが暗い顔をしていました。

「どうしたの。なにかあったの。」

と聞いても、

「ありがとう。だいじょうぶだよ。」

と理由を教えてくださいませんでした。

去年の九月、弟が保育園から帰ってきて、とてもつかれた顔をしていました。夕食を取らずにずっとねているので、とても心配でした。そのころから、弟とお母さんは、病院へよく行くようになりました。

「今度ね、入院することになったの。」

と、とつ然お母さんが言いました。わたしはお母さんが入院すると思いました。しかし、入院するのは弟でした。「熱がないのにどうして弟が入院するの

だろう」とふしぎでした。

弟は食べ物好ききらいがはげしいので、入院中だいじょうぶか気になりました。お父さんがつきそいで、お母さんは妹をつれて、朝早く病院へ行った。夜おそく帰ってきて泣いている日もありました。思いきって弟のことを聞くと、今度はくわしく教えてくださいました。

はいの病気と言われました。いろいろ話をしてくれましたが、わたしにはむずかしくて理かいてきませんでした。わかることは、げんいんがわからないむずかしい病気とたたかっていることです。病名がわからないので、薬がないそうです。ちりょうの方法がわからないなんて信じられません。病院の先生はなんでも治せるスーパースターだと思っていたので、弟の病気もすぐに治ると思っていました。病院の先生がきらいになりそうです。何度も入院する弟に、わたしは「がんばれ！」って心の中でつぶやくが、弟には伝えられずにいます。だっていつもががんばっているのだから。

弟は病院が大きらいとよく言います。当然だと思えます。わけのわからないけんさばかりされて、注しやをたくさんされてかわいそうです。泣きながらがんばるすがたをおうえんすることしかできません。

代われるのなら代わってあげたいです。

サッカーや走るのが好きな弟ですが時どき心配になります。目には見えない体の中で、ひめいを上げているかもしれないからです。弟はなんでも一生けん命に取り組んでいて、かっこいいです。最後までしっかりとやりたいタイプなので、むりしてそうです。

わたしになにができるのでしょうか。弟は来年小学生になります。もしかしたら長く生きられないかもしれません。家族で協力して弟をサポートしていく日がくるかもしれません。弟とすごす時間を大切にしたいです。やさしく笑顔でいることしかできないけれど、役に立てることを考えて行動したいです。病気に負けないで、長生きできますように！